



◆日独協会のドイツコーナーではドイツのPR資料のほかに、カプトビールの製造技術の元となったゲルマニア社関連資料等が展示されました。カプトビール創業の立役者であった盛田善平氏ゆかりのシキシマパンの販売も行われ2日とも完売という盛況振りでした。
◆グッズ販売では、特にカプトビール公認グッズを充実、Tシャツ・バンダナ・ピンバッジにカプトビールグラスなど好評を博し、人気商品は完売となりました。
◆赤レンガを取り巻くネットワークの輪も拡がり、赤煉瓦倶楽部半田と一緒に、観光ボランティアの皆さん総勢20名以上の方々が赤レンガ建物の案内をしていただきました。紺屋海道研究会の皆さん共育ネットの皆さん、半田市ボランティア連絡協議会の皆さんや郵便局の皆さんなど沢山の方々が、ビールのおつまみから知多や半田の物産品や記念グッズなどを、一生懸命声を枯らして販売してくれました。半田市の職員の皆さんも準備に会場整理にと大活躍でした。

おかげさまで、6月4・5両日で8,700名もの来場者の皆さんをお迎えることが出来、関係者一同大変満足する2日間となり、又、9月の全国大会に向けて大きな励みとなりました。この場をお借りして、特別公開を支えていただいた方々に厚くお礼を申し上げます。最後に、乙川中の長沼君ありがとう、全国大会にも来てくれよな！！
(宮原記)



追記) 今回の復刻カプトビールをゆかりの中埜又左エ門和英氏に謹呈いたしましたところ丁寧なお礼状を頂戴いたしました。

■ NWES 02

「江別から半田へ！」

赤煉瓦ネットワーク2004江別大会 参加報告



2005年の赤煉瓦ネットワーク半田大会開催に向けて大会横断幕を引き継ぐために、会長以下9名が10月16日から18日の3日間、北海道の江別に行ってきました。

◆千歳空港から札幌への車窓は、すっきりと晴れ渡った北海道の青い空。そのうきうきした気分突然次から次へとなぎ倒された木々が現れてきて、およそ一ヶ月前に北海道付近を通過した台風18号による予想以上の被害を目の当たりにしました。

◆到着当日16日は大会1日目、宇宙飛行士毛利さんの「宇宙からみた赤レンガ」というスケールの大きな特別講演、江別倶楽部の活動報告。懇親会は結婚披露宴と見紛うようなコース料理と北海道副知事をはじめとするご来賓の挨拶に引き続き、参加者全員が赤レンガとの関わりを語りついでいった後、我が半田倶楽部が第15回全国大会の誘致を宣言して、無事、横断幕の引継ぎセレモニーを終えました。

◆翌17日は、札幌の歴史的建物の見学会。「日本れんが紀行」という本も出版されている喜田信代さんの素敵な案内で①札幌聖ミカエル教会（特徴のある外観と、レンガ壁が美しい礼拝堂はこじんまりしているだけにとても印象的）②ビール園（ビール博物館は工事中で残念ながらパス）③旧北海道本庁舎（建築上の説明もうわの空で重厚で大規模な美しい外観に感動）④さっぽろファクトリー（商品搬入通路や裏通路、建物の外構部分に残るレンガ壁は、建物内の小奇麗なビアホールや土産物販売店以上に魅力的で歴史を感じさせる）⑤点在するりんご倉庫（小粒ながらきらりと光るレンガ造の小屋の数々）を見学し、15時過ぎに半田での再会を期しながら解散、江別大会の全日程を終了しました。

◆大会終了後、我々半田のメンバーは人気の小樽運河周辺の街づくりを学ぶべく一路小樽へ移動、夜は老舗のそば屋・藪半にて、そのご主人で小樽の街づくりの仕掛け人である小川原さんから、苦労話や現在の問題点など、半田の街づくりにも参考になる貴重なお話をじっくりと拝聴しました。そして、最終日の18日には小樽観光ガイドクラブの会長である倉重さん自らの案内で小樽の観光。かなり脚を使った行程でしたが、それも着にしながら和気藹々と、一味ちがった印象深いものでした。

◆このような短時間の駆足垣間見の旅でしたが、北海道の歴史遺産には圧倒されました。又、この度の密度の濃い見学はガイドして頂いた方々の、街を知り尽くし、訪問者の意を汲み取った案内に拠るところが大きかったと感じ入った次第です。翌年の半田大会でも、全国から半田のまにに集まっていただく皆様に、同じような感動を持って帰っていただけるように努力しなければと強く感じた旅でした。江別の皆様をはじめ、お世話になった方々に心からのお礼を申し上げます。（桑田記）

■NEWS 03

目覚めよ！赤レンガ 赤レンガロード完成！！

「目覚めよ！赤レンガ事業」の一環で、5月7日、8日に半田赤レンガ建物で赤レンガロードを作りました。◆当日は、近くに住む小中学生とご両親約600人が、レンガに名前や絵・願い事などをかいて、裏返して敷いていきました。さわやかな青空のもと、友達どうして続き絵にしたり、部活のメンバーで寄せ書きをしたり、家族の夢を書いたり、と、工夫をこらした、色とりどりで、様々な思いを込めたレンガができあがりました。

初日は前日の大雨の影響で地盤がゆるんでしまい煉瓦を敷くことができませんでした。二日目には初日分を含めて無事敷くことができました。◆当日の運営には、市内の中高生のボランティアにもご協力をいただきました。赤レンガ建物へお越しの際には、敷きつめられた赤レンガにどのような願い・想いが込められているのか、想像をふくらませてみませんか。（山口記）



■NEWS 04

幻想的な空間へ 第2回蔵のまち雑祭り

2月26・27日の二日間、今年度も半田市内中心部の12会場で「蔵のまち雑祭り」が行われ、半田赤レンガ建物もお雑祭様を展示しました。◆昨年好評をいただいたスタンドグラスや吹きガラス、乙川人形や常滑焼の雑を展示したほか、会長自らのお琴の生演奏と茶香炉の香り・生花で空間も楽しめるようにしました。◆今年は、当日の運営に市内中学生のボランティアのご協力をいただいたほか、ハーフティンバー部分では雁宿小学校のご協力で、小学生が作った半田市を紹介するCMの、可愛らしい生放送が行われました。また、貯蔵庫の2部屋では暗闇にたくさんの発光ダイオードを灯した「光ファンタジー」

（ロジック）と「ゆめホテル」（武豊文化創造協会）の展示が行われました。「ゆめホテル」はネコジャラシのように、針金の先に発光ダイオードをつけたもので、その穏やかに揺れる「ゆめホテル」を前にしてオカリナのミニコンサートも行われ、建物中に幻想的な空間が広がりました。おかげさまで、2日間で3,000名のお客様に「赤レンガのひな祭り」を楽しんでいただきました。ありがとうございました。（山口記）



■ NEWS 05

2005年 恒例の新春合宿

1月24日（日）午後1時より半田市成

岩公民館で恒例の新春合宿が行われました。◆本年度の活動計画を議論することが目的ですが、今年は特にカブトビール復刻、赤煉瓦全国大会というビッグイベントを予定していることもあり開始前から20数名の参加者の並々ならぬ意気込み（鼻息？）が感じられました。まず開会にあたり永遠のマドンナ（？）と称されている長谷川会長より、昨年皆様のご協力で大変充実した活動を行うことが出来たことへのお礼と、本年度予定されている2大ビッグイベントへ倶楽部の皆様のご協力ご支援をお願いしたい旨の挨拶がありました。続いて、年々額の面積が広がっている（？）馬場事務局長より「万博及び政府のジジットジャパン関連事業として都市再生プロジェクト、産業観光プロジェクトが立ち上がりそれぞれのプロジェクトが半田赤レンガ建物を取り上げてくれた。今年は半田赤レンガ建物を全国に発信する絶好のチャンス。当合宿で徹底的に議論し今年の事業を成功に導きたい」との挨拶がありました。その後ご来賓の挨拶があり、1時30分より実質審議に入りました。◆まず報告事項として昨年10月に行われ当倶楽部より大挙して9名が参加した北海道江別大会の報告が宮原副会長よりありました。その他の参加メンバーの感想は？との声にイノー一番に某副会長より裕次郎記念館や小樽の坂道の思い出（苦労？）話が披露（疲労？）されました。続いて今年の主な活動計画「2月雑祭り、4月レンガロード、6月特別公開、9月全国大会」について事務局よりタタキ台案が説明されました。その後主に特別公開と全国大会について分科会審議を含み活発な議論が展開されました。◆気づいたときはすでに午後6時頃。議論はそれまでとし、引き続き模様替えを行い新年懇親会に切り替え午後9時頃まで赤レンガをつまみに楽しい時間を過ごしました。中締めの際には今年のビッグイ



